



基本理念 この病院で最も大切なひとは医療を受ける人である

「プラネタリウム体験～in夏祭り」を開催して

児童指導員 田場 翔悟

8月21日(金)に西Ⅱ病棟、28日(金)西Ⅰ病棟にて「プラネタリウム体験～in 夏祭り」を開催しました。今回は初めての試みとして、本物の星空をなかなか見ることができない方へ星空や宇宙をお届けする活動を行っている「星つむぎの村」のご協力のもと、プラネタリウム体験を開催しました。

当日は天井や壁に映し出された星空や惑星の映像、音楽を楽しんでいただきました。ご家族と一緒に横たわり映像を眺める方や車椅子のリクライニングを倒して天井を眺める方などそれぞれの過ごし方で体験されていました。

西Ⅱ病棟では、星空ナビゲーターによるライブ配信のもとプラネタリウム体験を行いました。事前に利用者さんのお名前と該当する星座をお伝えし、当日は該当する星座を読み上げて紹介していただきました。

お名前を呼ばれると返答される方もおり、ご家族にも好評でした。行事を通して利用者様とご家族が同じ時間を共有する機会となり、ご家族からは「一緒に星を見ることができるとは思わなかった」との声も聞かれました。また、夏祭り当日には、管理栄養室にイベント食をご用意いただき、昼食に星型の野菜を盛り付けたハヤシライス、夏祭り終了後にはおやつとしてスイカゼリーを提供していただきました。

当日は各部署からの応援をいただき円滑に運営することができました。また、学生ボランティアとして、沖縄国際大学からも多数ご参加いただきました。皆さまのご協力のおかげで、安全に開催することができました。今後も行事を通して、利用者様に楽しいと思って頂く機会を提供すると共にご家族やボランティアの方々との交流の機会を提供して参りますので、引き続きご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



● 地域連携室だより

精神保健福祉士 森根 薫

地域医療連携室では初診の相談だけでなく通院中、入院中の方の経済的な相談、就労に関しての相談、社会資源に関しての相談など様々な相談をお受けしています。患者さんやご家族の方、支援者からの相談など様々な方からのご相談があります。

初診はじめ、受診については予約制となっておりますが、入院治療のご相談など迅速に対応できるよう心掛けてまいりますので、お困りごとなどお気軽に医事課隣の地域医療連携室までお声掛けください。

院長



ふくじ やすひで
福治 康秀

1964年生まれ、那覇市出身、首里高校卒。
1993年琉球大学医学部卒、琉球大学医学部精神神経科入局。
95年那覇市立病院精神科、96年琉球大学精神神経科、2009年琉球病院精神科部長、2010年副院長を経て2014年琉球病院長に就任。
日本森田療法学会理事。
日本病院・地域精神医学学会理事。
琉球大学医学部 臨床教授。

診療科

- ・一般精神科
- ・こども心療科
- ・クロザリル外来
- ・アルコール依存症等外来

病床数

353 床

- ・精神 151 床
(一般精神・クロザピン専門・精神科救急)
- ・アルコール依存症 44 床
- ・児童思春期ユニット 4 床
- ・重症心身障がい 90 床
- ・医療観察法 37 床



路線バス 那覇BS(下り)または名護BS(上り)より
沖縄バス「77 番号護東線」浜田バス停
下車徒歩 3 分

自動車 那覇市から40分沖縄自動車道道金武
インターから名護向け 5 分

お問い合わせ

時間 8:30 ～ 17:15
(土・日・祝日・年末年始以外)
TEL 098-968-2133(代)
内線 231・234

地域医療連携室(直通)

TEL 098-968-3550
FAX 098-968-7370

治療抵抗性精神疾患への医療

精神科医長 木田 直也



クロザピンの治療状況

治療抵抗性統合失調症の患者さんに対して、当院では2010年からクロザピン(CLZ)治療を開始し、登録症例数は延べ464例になりました。2026年8月のCLZ登録症例は1例でした。CLZ導入前には、暴力行為や多飲水などの問題行動のために、隔離や身体拘束が必要な患者さんも多くいらっしゃいましたが、CLZ継続例では問題行動が消失、もしくは軽減し、ほとんどの症例で隔離や身体拘束は解除できています。週に3回のCLZ専門外来も行っていますので、患者さんのご紹介をお願いいたします。

看護部のご紹介

副看護部長 木下 悦子

琉球病院看護部は、「患者さん・ご家族の人権を尊重し、安全・安楽・安寧の得られる質の高い看護を目指します」という看護理念のもと、精神科医療と重症心身障がい児(者)の専門病院として、患者さん一人ひとりの思いや生活背景を大切にした看護を実践しています。医師、薬剤師、作業療法士、心理士、精神科保健福祉士など多職種と連携し、患者さんが安心して治療や療養に取り組める環境づくりに努めており、専門性の高い精神科看護と温かなケアを両立し、「その人らしく生きること」を支える看護を目指しています。

患者さんに安心していただける医療・看護の提供のために、今後も教育を充実させ、看護師一人ひとりがやりがいを持って地域医療に貢献していけるよう取り組んでまいります。

入退院支援看護師のご紹介

入退院支援看護師 平安名 亜美

平成29年度より「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム」の構築に向けて、医療ケアの継続を重視した方策へと転換し、地域移行に向けた取り組みが積極的に行われています。また、精神保健福祉法改正により、医療保護入院の入院期間が定められ、地域生活への移行を促進するために地域援助事業者や入院者支援員等との連携が一層求められるようになりました。当院では、入退院支援看護師3名が地域連携室に勤務しており、新規の外来受診や入院相談、病棟と連携しながら退院支援を行うことで安心して入院医療を受けられるよう総合的にサポートしています。

住み慣れた地域で、安定した生活の継続を目指し、病院と地域をつなぐ役割として皆様からのご相談をお待ちしております。

問診票の記入について

心理療法士 藤枝 紗世

こども心療科では、初診来院時に、大まかな主訴や生育歴、家族構成などの基本情報について、問診票にご記入いただいてから診察にご案内していますが、その記入のためにお時間をいただくことがございました。よりスムーズにご案内のため、琉球病院ホームページにて、【外来のご案内⇒こども心療科】のページから『こども心療科外来問診票』と『こども心療科の診察の基本的な流れ』の資料がご確認、ダウンロードできるようになっております。あらかじめご自宅等で問診票を記入し、初診時にご持参いただくと、よりスムーズに診察にご案内できます。ぜひご活用ください。

こども心療科では今後も、相談にいらっしゃるお子さんやご家族が安心して受診いただけるような環境づくりを行ってまいりますので、よろしくお願いいたします。